



笑顔であいさつ

校長 豊田 由香

新緑が鮮やかに輝き、そよ風に若葉が揺れる季節となりました。校庭では、子どもたちの元気な声がこだまし、学校に活気をもたらせてくれています。子どもたちは、新しいクラスや友だち、先生との出会いに胸を躍らせながら、少しずつ新しい環境に慣れ、安心した表情を見せるようになってきました。

先日は、授業参観や懇談会に御参加いただき、子どもたちへの励ましやあたたかい御意見をお寄せいただきましたこと、心より感謝申し上げます。また、地域の皆様には、登下校の見守りや日々のあたたかな御支援をいただき、学校生活を支えていただいております。皆様の思いが、子どもたちの毎日の安心と成長につながっていることを、改めて感じています。

さて、『すべてはあいさつから始まる』とよく言われますが、「あいさつ」がもたらす力は何だと思えますか。あいさつとは、仏教の禅宗で使用されていた「一挨一拶（いちあいいつさつ）」、「一つ押して一つ迫る」という意味の禅の言葉をあてはめたとされています。この禅の言葉の「挨拶」を漢文の読み下し文にすると、「挨く（たたく）」「拶く（ひらく）」となります。つまり、心のドアをトントンとノックして開けるという意味があると思います。あいさつは、感謝を伝える、相手の存在を認める、仲よくなる、印象のよさを与えるなどのたくさんの力を秘めています。私は、いつも「気持ちのよいあいさつができる」ように心掛けています。気持ちのよいあいさつとは、にこやかに、相手を見て、はっきりと、必ず返すなど相手に対して安心感を伝え、与えることです。気持ちのよいあいさつのできる人は、信頼され、心づかいのできる人だと言われています。ですから、大宮別所小学校の皆さんには、場面に適した、礼にかなった気持ちのよいあいさつが自然にできる人になってほしいです。あいさつはやらされることではなく、自分の考えでやってこそ学校教育目標の生きる力につながると 생각합니다。保護者、地域の皆様、あいさつは社会性を身に付けていく上で基本だと考えています。あいさつを通して、人とのコミュニケーションが生まれ、かかわりが深まり、人間関係が広がります。子どもたちにあいさつを教えることも大切ですが、教職員も含めて「あいさつのできる大人」としての姿を示していきたいです。御協力をお願いいたします。

さいたま市民の日

さいたま市民の日は、毎年5月1日です。2001年の5月1日に浦和・大宮・与野の3市が合併して「さいたま市」が誕生したことを記念して、誕生20周年の節目に設定されました。

さいたま市の歴史や文化に親しみ、市民のみなさんと、魅力ある市を将来にわたって創っていくことを期する日となりました。この日は、さいたま市立の小・中・高・特別支援学校がお休みとなります。また、市内の公共施設の入場・利用料が無料になるなどの特典があります。詳細はさいたま市のホームページに載っていますのでご覧ください。ちなみに、「つなが竜ヌウ」の誕生日でもあります。

